

## 第 6 回 宇都宮市河内自治会議

日 時：平成24年12月5日（水）

午後2時00分～

場 所：河内地域自治センター

第1・2会議室

---

### 次 第

---

#### 1 開 会

#### 2 協議事項

(1) 地域のまちづくりに関する施策の提案（テーマ：「教育・文化，健全育成」）について

①提案書（素案）について・・・・・・【資料1，参考資料1・2】

#### 3 その他

(1) 次回の開催日程について

(2) その他

#### 4 閉会

(素案)

# 提 案 書

地域のまちづくりに関する施策について

【テーマ】教育・文化，健全育成



平成25年2月

宇都宮市河内自治会議

## も く じ

1. はじめに	1
2. テーマの設定	2
3. 河内地域の「教育・文化、健全育成」についての提案	
(1) 提案への取り組み	4
(2) 現状と課題と目標	5
(3) 実現方策と実現プラン	6
4. 審議の経緯	10
5. 委員名簿	11

### 【表紙の写真】 下組の天棚について

下田原町の下組若衆会に伝わる天棚が1968（昭和43）年以来44年ぶりに組み立てられ、下組自治会が10月28日に下組公民館で開いた「下組まつり」で公開されました。

天棚は、お盆に行われる天祭で使用される組み立て式の2階建て屋台です。五穀豊穰や無病息災を祈願する天祭は、宇都宮とその近郊に見られる独特の風習です。下組の天棚は江戸後期から66戸の若衆会で引き継いできました。

## 1. はじめに

地域のまちづくりに関する施策についての提案は、市長の諮問に応じて合併市町村基本計画の執行状況に対して意見を述べることも、自治会議が担う大きな役割であり、河内地域の目標像である『水と緑に囲まれ やさしい居住空間にあふれる住みやすい地域』の実現に向け、現在の地域の現状と課題を理解し、魅力ある地域の将来像を描き提案するものです。

これまで、第1期（平成19年度～20年度）においては、「暮らしやすく、触れ合い交流に満ちた地域に向けて」をテーマに6つの提案をしました。また、第2期（平成21年度～22年度）においては、「住みやすく、生きいきとした地域を目指して」をテーマに7つの提案をまいりました。

今回の提案にあたりましては、これまでの提案とはスタイルを変え、これからのまちづくりは地域が自ら取り組むことを基本に、住民自治の観点から次の3点を念頭に取り組みをはじめました。

- 地域の多くの人の意見を集約した提案とする。
- 自分たち（地域）に『何が出来るか』を常に意識する。
- 10年後の理想と実現性を描く。

このような考えのもと、現状の把握や課題の抽出、将来の予想など十分に話し合い、取り組みの方向性を導き出して、地域全体でそれぞれの立場から目標に向かって活動できるよう、実行性（実効性）のある提案となるように心掛けました。

河内地域は、豊かな自然環境と住環境の整った住宅地域とが調和しながら発展してきましたが、今後もこれらの地域の特性を生かしながら、特色あるまちづくりを進めていくためには、まちづくりに関わる人はもとより、地域の多くの方が力を合わせて、継続的に取り組むことが重要であります。

この提案書が、今後、河内地域のまちづくりを進めていくうえ、宇都宮市の中でも輝きを増し、誇れる地域として発展する際の参考となれば幸いです。

## 2. テーマの設定

### (1) 設定の考え方

これまで2回の提案におけるテーマの設定は、特定の分野に絞込み、これを掘り下げて検討していく手法を取っていました。

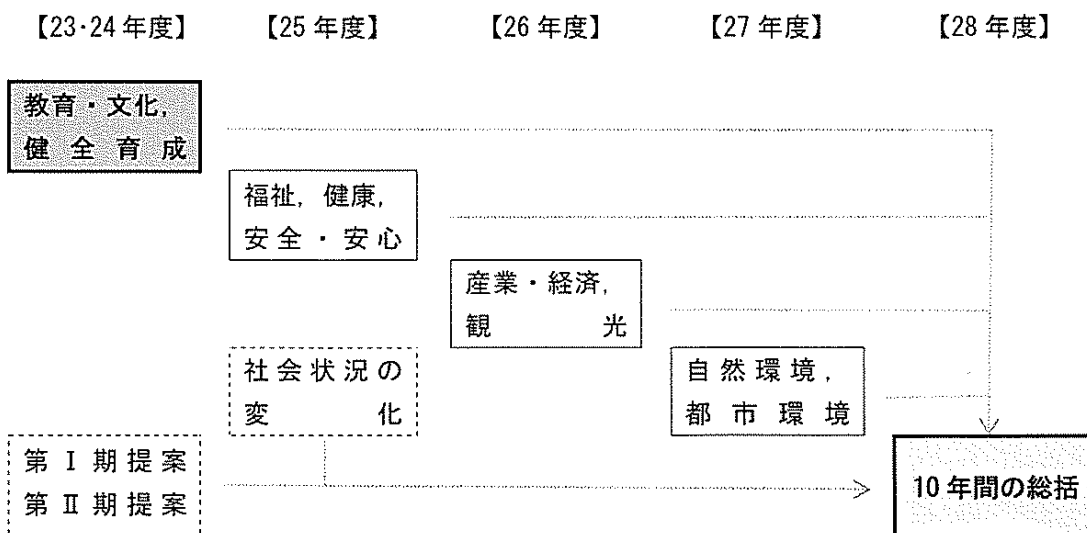
今回のテーマの設定にあたっては、合併後6年目を迎え自治会議も中間点を過ぎたことから、最終年度を見据えて長期的な視点に立って検討していくこととしました。

具体的には、地域の様々な課題をすべて洗い出し、分野別に体系化することにより、提案内容に統一性や継続性を持たせることとしました。

また、地域の10年後の姿をイメージし、地域の多くの皆さんが様々な形で、まちづくりに関わっていただけますよう、より身近でわかりやすい提案内容としました。

### (2) 年度別の取り組み

テーマの選定にあたりましては、主要な施策として25項目の中から、地域の特性等を考慮して9項目に絞り込みました。さらに、類似の分野を4つのテーマに集約して、下記のように計画的に取り組んでいくこととしました。

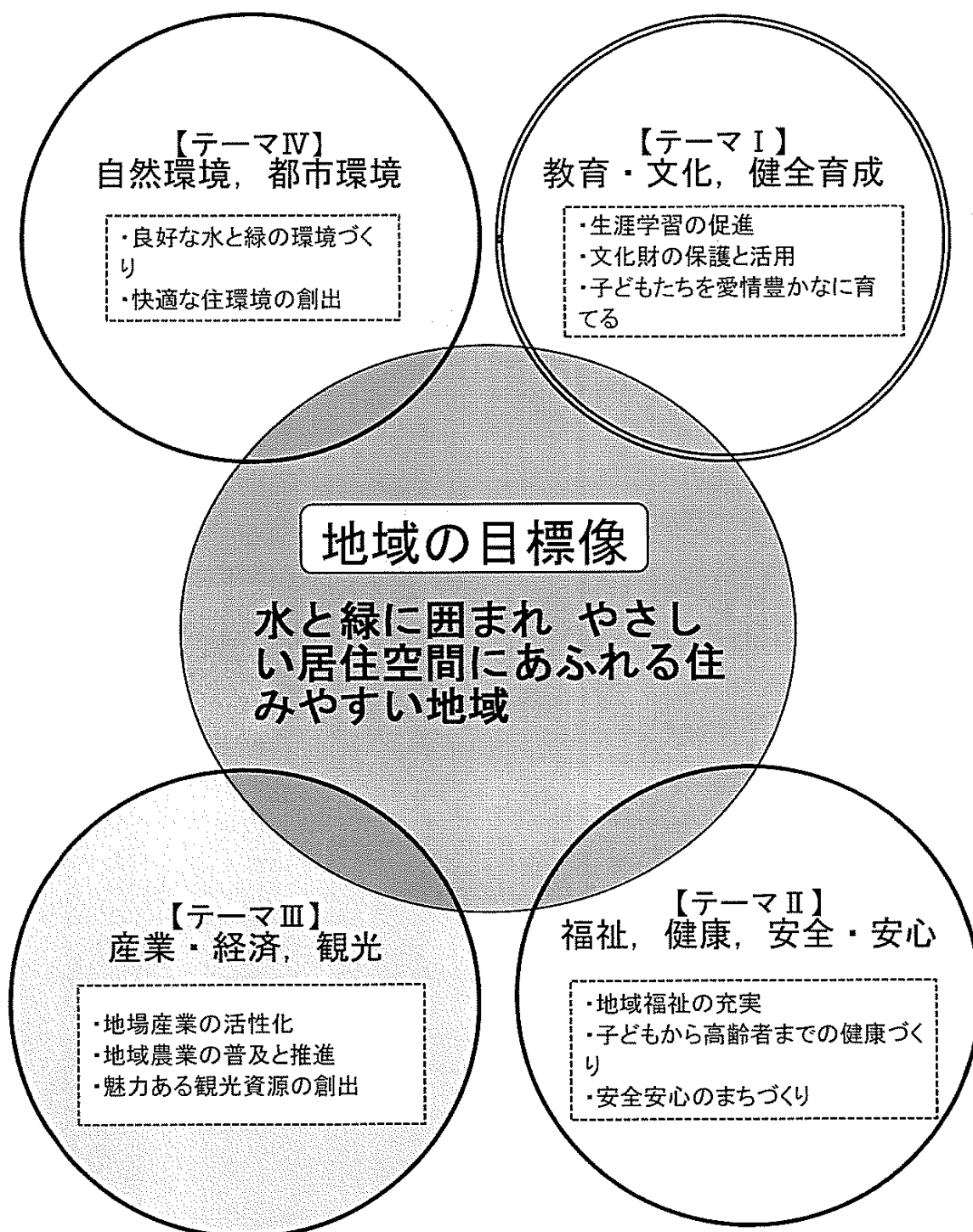


今期（23・24年度）は、4つのテーマのうち「教育・文化、健全育成」について検討し、このテーマについての提案を行いました。

同じように次期の自治会議におきましては、25年度に「福祉、健康、安全・安心」を、26年度に「産業・経済、観光」を検討し、26年度末に合わせて提案します。

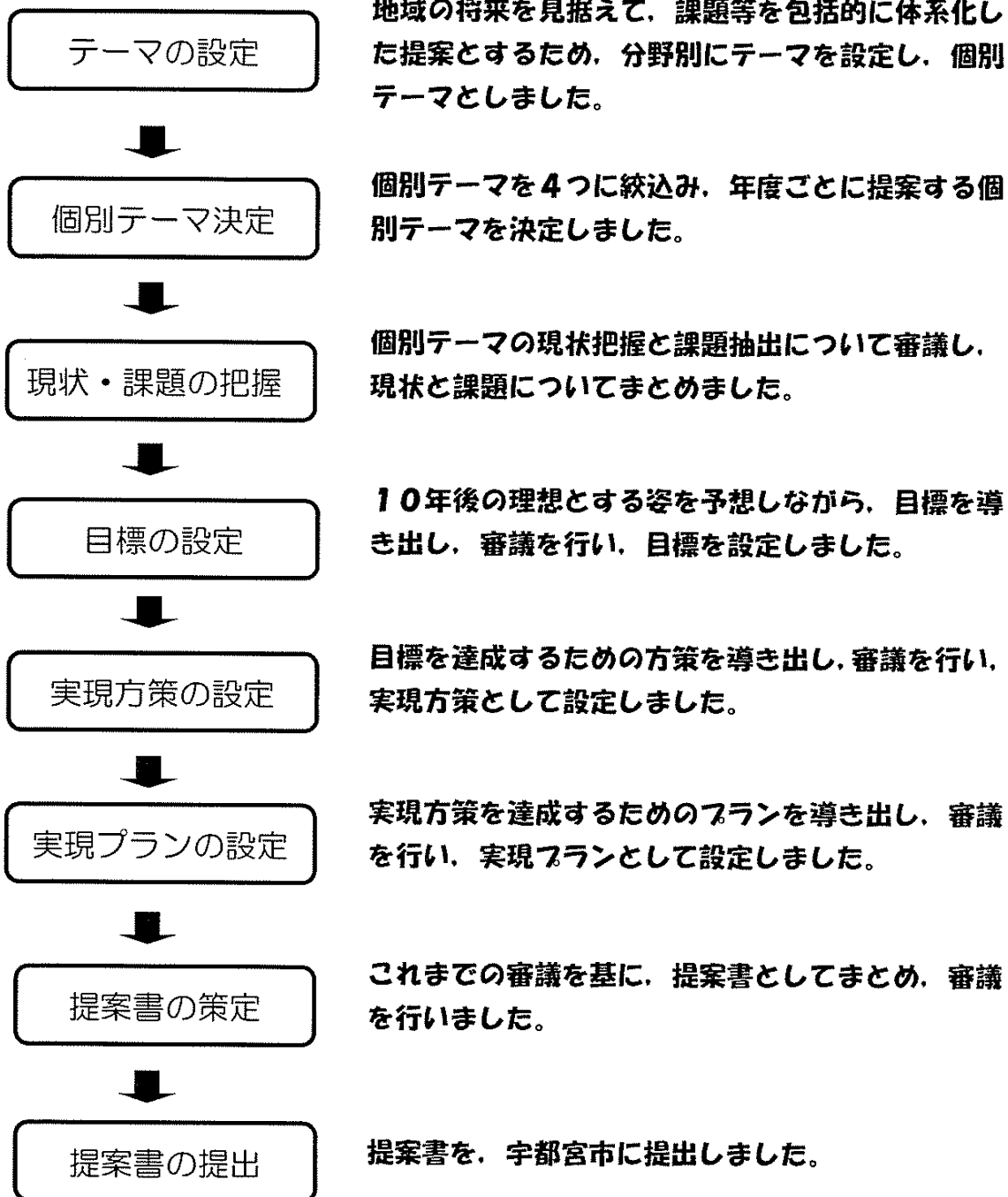
最終期の27年度は、「自然環境、都市環境」について検討し、すべてのテーマが整うこととなります。自治会議の最終年となる28年度には、これら4つのテーマについて、この間の社会状況の変化や第I・II期の提案を含めて総合的に検討し、10年間の総括として今後の地域のまちづくりに資する提案を行う予定です。

# まちづくり提案の体系図



### 3. 河内地域の「教育・文化、健全育成」についての提案

#### (1) 提案への取り組み

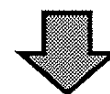
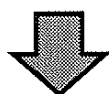
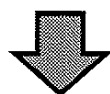


(2) 現状と課題と目標

	教育	文化	健全育成
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生涯学習の場が少ない</li> <li>●人材の発掘と活用が出来ていない</li> <li>●子供の教育環境が良い</li> <li>●生涯学習教育の伝統がある</li> <li>●生涯学習が弱い</li> <li>●学ぶ環境に恵まれている</li> <li>●水と緑が豊富で情操教育に優れている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●文化財が豊富である</li> <li>●地域文化遺産が豊富</li> <li>●文化施設の活用が弱い</li> <li>●文化財の保存育成に対する住民の意識が低い</li> <li>●地域文化財の周知が不足</li> <li>●文化教育活動のPR不足</li> <li>●地域の諸活動参加・宣伝・啓蒙が弱い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の活動がさかん</li> <li>●地域の施設に恵まれている</li> </ul>



課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生涯教育の強化</li> <li>○生涯教育の充実や強化を図る</li> <li>○豊富な自然環境を活かした学習の仕組みづくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文化財をまちづくりに活かす方策を検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○青少年の健全育成の強化・充実を図る</li> <li>○地域の交流や活動を活性化し充実させる</li> <li>○温もりのある地域づくり</li> </ul>
----	--	---	---



目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎生涯学習の充実により、子どもから高齢者まで笑顔で暮らせる『まち』</li> <li>◎水と緑を活かした学びを通し、自然と親しめる『まち』</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎文化財を活用し、地域の魅力を発信する『まち』</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎地域みんなが楽しく行事に参加し、交流の盛んな『まち』</li> </ul>
----	---	---	---



### (3) 実現方策と実現プラン

#### 【教育】

#### 目 標

生涯学習の充実により、子どもから高齢者まで笑顔で暮らせる「まち」

(実現方策1) 子どもから高齢者まで学べる場をつくる

##### 《実現プラン》

- ①子どもの作品を展示する企画展を開催する。
- ②遊びを通して、異世代が交流できる機会を、定期的に開催する。
- ③子どもから高齢者まで学べる活動を実施する。

(実現方策2) 地域が主体となって学びの場をつくる

##### 《実現プラン》

- ①休耕地を利用した農業体験を行い、生産物で郷土料理を学べる機会をつくる。
- ②自然環境を活かした学びの場をつくる。
- ③地域活動（清掃活動など）を小・中学生が体験できる機会をつくる。
- ④学校の地域コーディネーターの活動を推進する。

(実現方策3) 高齢者の知識や経験を子どもたちに伝える

##### 《実現プラン》

- ①小・中学校で高齢者による出前講座を聞き、知識経験を子どもたちへ伝える。
- ②高齢者による、あいさつ運動を実施する。
- ③高齢者の人材をリストアップし、リーダーを養成する。
- ④高齢者の人生経験を徳育に活用する。

## 目 標

### 水と緑を活かした学びを通し、自然と親しめる「まち」

(実現方策4) 地域の貴重な自然を守る教育を進める

#### 《実現プラン》

- ①小学生向けの自然マップを作成し、学校で出前講座を行う。
- ②清掃活動を行い、生きものや生物の視察会を実施する。
- ③地域の豊かな水と緑を活かした環境保全の体験型授業を小中学校で行う。
- ④自然保護のためのセミナーを開催する。

(実現方策5) 地域の素晴らしい自然をまちづくりに活かす

#### 《実現プラン》

- ①自然の中での演奏会開催や、魚のつかみ取り大会を復活させる。
- ②自然を活用した散策路・遊歩道を整備し、地域内の自然を楽しんでもらう。
- ③自然環境保全地域(※1)を目指し、地域内の自然を守る。
- ④自然を取り入れた遊びや体験型イベントを実施する。

(※1)・・・自然環境保全法に基づき、自然環境を保全することが特に必要な地域として指定される地域のこと。

(実現方策6) 農業体験や食育を通して自然の大切さを学ぶ

#### 《実現プラン》

- ①地域内でB級グルメを作るためコンテストを開催する。
- ②子供たちが野菜を栽培し、それを自ら直売所で販売する。
- ③特産品を使って料理教室を開く。
- ④学校と地域が連携した食育体験ができる授業を行う。
- ⑤生物の食物連鎖と命の大切さを農業で体験できる場をつくる。

## 【文化】

### 目 標

#### 文化財を活用し、地域の魅力を発信する「まち」

(実現方策7) 文化財を多くの人に知ってもらう

##### 《実現プラン》

- ①文化財を案内するマップを作成する。
- ②文化財解説ボランティアによる見学会を定期的で開催する。
- ③小・中学生や高齢者への歴史教室や文化財教室を開催する。
- ④歴史資料を展示する企画展を開催する。

(実現方策8) 文化財をまちづくりに活かす

##### 《実現プラン》

- ①文化財の一般公開と併せて、フリーマーケットを同じ場所で開催する。
- ②白沢宿の観光コースをつくり、宿内に案内と休憩を兼ねた拠点を設ける。
- ③文化財の見学会を実施し、そのコース場の特産販売所を設ける。

(実現方策9) 文化財を守り伝える人材を育成する

##### 《実現プラン》

- ①文化財解説ボランティアを増やすため、人材の発掘と育成を行う。
- ②文化財を継承する人材を育成する。
- ③文化財の勉強会や講演会を行い、文化財の関心を高める学習の機会を増やす。
- ④文化財一覧のデータ等の管理、指導者名簿を作成するなどの支援を行う。
- ⑤小・中学生に文化財に触れることの出来る学習を実施する。

## 【健全育成】

### 目 標

#### 地域みんなが楽しく行事に参加し、交流の盛んな「まち」

(実現方策10) 地域みんなが楽しめる交流の場をつくる

##### 《実現プラン》

- ①運動会等のイベントで、河内音頭を復活させる。
- ②連凧の競技会、芋煮会、かかしまつり、田んぼの中で星をながめながらスライド・映画を鑑賞するなどのイベントを開催する。
- ③白沢宿に、駐車場、公衆トイレ、空家利用のカフェやおしゃべりサロンをつくる。

(実現方策11) 地域の各種団体や学校との連携を強化する

##### 《実現プラン》

- ①自然観察会を充実・拡大させて、子供の絵の展示会も開催する。
- ②「オープンスクール」のPR活動を行い、地域との連携を強化する。
- ③学校と連携を図るため、各種団体活動についての出前講座を行う。
- ④情操教育のため、マナーとルールの推進運動を学校と地域で連携して取り組む。

(実現方策12) 地域活動の指導者を育成する

##### 《実現プラン》

- ①経験豊富な高齢者を指導者に迎え、次世代の指導者を養成する。
- ②各地域のイベントを視察し、地域活動の参考とする。
- ③指導者を育成するカリキュラムを作成し、実践していく。
- ④指導者の候補者の人材をリストアップし、講習会を実施し、人材育成を図る。

## 4. 審議の経緯

### 平成23年度

- |             |                                 |
|-------------|---------------------------------|
| 平成23年11月14日 | 第5回自治会議                         |
|             | ・先進地視察研修<br>(栃木市・栃木の例幣使街道を考える会) |
| 平成24年1月17日  | 第6回自治会議                         |
|             | ・提案書の策定について協議                   |
| 平成24年2月13日  | 第7回自治会議                         |
|             | ・テーマの設定について協議                   |
| 平成24年3月21日  | 第8回自治会議                         |
|             | ・テーマの決定, 個別テーマの現状・課題の抽出         |

### 平成24年度

- |            |                        |
|------------|------------------------|
| 平成24年4月26日 | 第1回自治会議                |
|            | ・個別テーマの現状・課題のまとめ       |
| 平成24年5月30日 | 第2回自治会議                |
|            | ・10年後の目標の設定            |
| 平成24年6月28日 | 第3回自治会議                |
|            | ・目標のまとめ, 実現方策の検討       |
| 平成24年7月24日 | 第4回自治会議                |
|            | ・実現方策のまとめ, 実現プランの検討    |
| 平成24年9月5日  | 第5回自治会議                |
|            | ・実現プランの検討              |
| 平成24年12月5日 | 第6回自治会議                |
|            | ・実行プランのまとめ, 提案書(素案)の審議 |
| 平成25年1月 日  | 第7回自治会議                |
|            | ・提案書(案)の審議             |

## 5. 委員名簿

修子道男博彦雄子雄郎子美子一男子諦子子  
 弘幸重康昭達幸京静基一ミ卜惠京剛正幸 宣惠美  
 原上渡川藤田藤島田井井水女久村西壁谷田  
 杉川石磯伊太加君駒櫻渋清月五高田中真松吉  
 長員員員員員員員員員員員員員員員員員  
 会副委委委委委委委委委委委委委委委委委委委

(※委員名は50音順)

【テーマ】教育・文化、健全育成

No.	目標	実現方策	⇒	実現プラン(案)
1	文化財を活用し、『まち』地域の魅力を発信する	文化財を多くの人に知ってもらう	⇒	①文化財を案内するマップを作成する。 ②文化財解説ボランティアによる見学会を定期的に開催する。 ③小・中学生や高齢者への歴史教室や文化財教室を開催する。 ④歴史資料を展示する企画展を開催する。
2	『まち』地域の魅力を発信する	文化財をまちづくりに活かす	⇒	①文化財の一般公開と併せて、フリーマーケットを同じ場所で開催する。 ②白沢宿の観光コースをつくり、宿内に案内と休憩を兼ねた拠点を設置する。 ③文化財の見学会を実施し、そのコース場に特産販売所を設置する。
3	『まち』地域の魅力を発信する	文化財を守り伝える人材を育成する	⇒	①文化財解説ボランティアを増やすため、人材の発掘と育成を行う。 ②文化財を継承する人材を育成する。 ③文化財の勉強会や講演会を行い、文化財の関心を高める学習の機会を増やす。 ④文化財一覧のデータ等の管理、指導者名簿を作成するなど支援を行う。 ⑤小・中学生に文化財に触れることの出来る学習を実施する。
4	『まち』から高齢者まで笑顔で暮らせる	子どもから高齢者まで学べる場をつくる	⇒	①子どもの作品を展示する企画展を開催する。 ②遊びを通して、異世代が交流できる機会を、定期的に開催する。 ③子どもから高齢者まで学べる活動を実施する。
5	『まち』から高齢者まで笑顔で暮らせる	地域が主体となって学びの場をつくる	⇒	①休耕地を利用しての農業体験を行い、生産物で郷土料理を学べる機会をつくる。 ②自然環境を活かした学びの場をつくる。 ③地域活動(清掃活動など)を小・中学生が体験できる機会をつくる。 ④学校の地域コーディネーターの活動を推進する。
6	『まち』から高齢者まで笑顔で暮らせる	高齢者の知識や経験を子どもたちに伝える	⇒	①小・中学校で高齢者による出前講座を聞き、知識経験を子どもたちへ伝える。 ②高齢者による、あいさつ運動を実施する。 ③高齢者の人材をリストアップし、リーダーを養成する。 ④高齢者の人生経験を徳育に活用する。

【テーマ】教育・文化、健全育成

No.	目標	実現方策	⇔	実現プラン(案)
7	自然と緑を活かした学びを通して、親子しめく『まち』	地域の貴重な自然を守る教育を進める	⇒	①小学生向けの自然マップを作成し、学校で出前講座を行う。 ②清掃活動を行い、生きものや生物を視察会を実施する。 ③地域の豊かな水と緑を活かした環境保全の体験型授業を小中学校で行う。 ④自然保護のためのセミナーを開催する。
8	地域の素晴らしい自然をまちづくりに活かす	地域の素晴らしい自然をまちづくりに活かす	⇒	①自然の中での演奏会の開催や、魚のつかみ取り大会を復活させる。 ②自然を活用した散策路・遊歩道を整備し、地域内の自然を楽しんでもらう。 ③自然環境保全地域(※1)を旨指し、地域内の自然を守る。 ④自然を取り入れた遊びや体験型イベントを実施する。
9	農業体験や食育を通して自然の大切さを学ぶ	農業体験や食育を通して自然の大切さを学ぶ	⇒	①地域内でB級グルメを作るためコンテストを開催する。 ②子供たちが野菜を栽培し、それを自ら直売所で販売する。 ③特産品を使って料理教室を開く。 ④学校と地域が連携した食育体験ができる授業を行う。 ⑤生物の食物連鎖と命の大切さを農業で体験できる場をつくる。
10	地域みんなが楽しく行事に参加し、交流の盛んな『まち』	地域みんなが楽しめる交流の場をつくる	⇒	①運動会等のイベントで、河内音頭を復活させる。 ②連風の競技会、芋煮会、かかしまつり、田んぼの中で星をながめながらスライド・映画を鑑賞するなどイベントを開催する。 ③白沢宿に、駐車場、公衆トイレ、空家利用のカフェやおしゃべりサロンをつくる。
11	地域の各種団体や学校との連携を強化する	地域の各種団体や学校との連携を強化する	⇒	①自然観察会を充実・拡大させて、子供の絵の展示会も開催する。 ②「オープンスクール」のPR活動を行い、地域との連携を強化する。 ③学校と連携を図るため、各種団体活動について出前講座を行う。 ④情操教育のため、マナーとルールの推進運動を学校と地域で連携して取り組む。
12	地域活動の指導者を育成する	地域活動の指導者を育成する	⇒	①経験豊富な高齢者を指導者に迎え、次世代の指導者を養成する。 ②各地域のイベントを視察し、地域活動の参考とする。 ③指導者を育成するカリキュラムを作成し、実践していく。 ④指導者の候補者の人材をリストアップし、講習会を実施し、人材育成を図る。

(※1) 自然環境保全地域(しぜんかんきょうほぜんちいき)とは、自然環境保全法に基づき、自然環境を保全することが特に必要な地域として指定される地域のこと。



目標	実現方策	
水と緑を活かした学びを通して、自然と親しめる『まち』	No.7	地域の貴重な自然を守る教育を進める
	数	付箋の記載事項
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生向けの自然マップをつくる。</li> <li>・学校へ出前講座を開く。</li> <li>・クリーン作戦、生きもの、生物を観察。</li> <li>・子ども達にこの地域の自然環境めぐりをもっと活発にさせる。</li> <li>・クリーン作戦を実施し、美しい自然を守る。</li> <li>・自然を詠みこんだ俳句をつくり、コンクールをする。</li> </ul>
	実現方策	
	No.8	地域の素晴らしい自然をまちづくりに活かす
	数	付箋の記載事項
	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほたるの集い、場所を提供。</li> <li>・山学校を作る。</li> <li>・他地域への視察研修を実施する。</li> <li>・町ぐるみの花一杯運動をすすめる。</li> <li>・魚のつかみ取り大会を復活させる。</li> <li>・九郷半川をせき止めて、魚のつかみ取り大会を開く。</li> <li>・「ふれあい通り」と「緑の公園」を一体化して大きな公園とする。</li> <li>・自然の中での演奏会などを実施する。</li> <li>・自然にふれあう体験教室の開催。</li> </ul>
	実現方策	
	No.9	農業体験や食育を通して自然の大切さを学ぶ
	数	付箋の記載事項
	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B級グルメを道の駅で販売する。</li> <li>・B級グルメをこの地域でも作る。</li> <li>・「田んぼの学校」をもっと盛んにする。</li> <li>・そば祭り、そば打ち大会を実施。</li> <li>・地産地消で「道の駅」を作る。</li> <li>・地物を使った料理教室の開催。</li> <li>・子供が野菜を作り、直売所で自ら販売する。</li> <li>・子どもに田植えなどの農作業を体験させる。</li> <li>・地産地消の推進を図る。</li> <li>・地産地消で地域の産物を大いに利用した食生活をする。</li> <li>・特産品を使って料理教室を開く。</li> <li>・地域で作られている産物をもっとPRし、住民に知らせる。</li> </ul>

目標	実現方策	
地域のみんなが楽しく行事に参加し、交流の盛んな『まち』	No.10	地域みんなが楽しめる交流の場をつくる
	数	付箋の記載事項
	19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連凧をつくって競技会を行う。</li> <li>・逆面獅子舞, 親子でイベントに参加。</li> <li>・空き家を利用して, カフェやおしゃべりサロンをつくる。</li> <li>・公衆トイレをたくさん設置する。</li> <li>・かかしまつり(コンクール)を実施し, 人々の交流の場をつくる。</li> <li>・だれでも, いつでも行って, 情報交換ができる場をつくる。</li> <li>・「おはやし」を子供育成会で競争させる。</li> <li>・白澤宿に駐車場をつくる。</li> <li>・食のイベント開催, 秋にはいも煮, 春にはトン汁, 夏には鬼怒川の鮎などなど色々。</li> <li>・材料をもち寄り大なべで芋煮会をする。</li> <li>・しゃべり場づくり。</li> <li>・親子で楽しめるイベントをやる。たこ上げ大会など。</li> <li>・子どもの仮装大会の実施。</li> <li>・運動会等での河内音頭を復活させる。</li> <li>・田んぼの中で星をながめながら, スライド映画鑑賞する。</li> <li>・「河内大好き」をみんなであうたう♪♪(市民作詞)</li> <li>・地域主催のイベントの実施。(例, 盆踊り)</li> <li>・悩みごと相談室の設置。</li> <li>・各地区のおみこしを一同にあつめ, おまつりをする。</li> <li>・各種団体のまつりを一本化にして盛大にする。</li> </ul>
	No.11	地域の各種団体や学校との連携を強化する
	数	付箋の記載事項
	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校づくり地域協議会主催・自然観察会。</li> <li>・「わくわくフェスティバルinかわち」の充実・拡大。(青少年育成協・主催)</li> <li>・子供達に自分の地域の昔話を教えて, 覚えてもらう。</li> <li>・自然観察会。夏休み大会(昔の遊び, アスレチック)</li> <li>・開かれた学校という考えのもと, 学校行事に地域住民が積極的に参加する。</li> <li>・地域のイベントに子どもの絵を展示する。</li> <li>・学校に各種団体の活動を周知する。出前講座をする。</li> <li>・学校側も「オープンスクール」をもっと大々的にPRする。</li> </ul>
	No.12	地域活動の指導者を育成する
	数	付箋の記載事項
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・育成するカリキュラムを考え, 育成する。(若い世代の育成)</li> <li>・経験豊富な高齢者を指導者に迎える。</li> <li>・各地域のイベント等を視察する。</li> <li>・指導者を育成する, 講座などに人材をおくる。</li> <li>・広報誌の活用, おさそいする!(地域活動に参加し, 育成していく)</li> </ul>

テーマ『教育・文化、健全育成』

実現プラン抽出 グループ協議結果[B・Cグループ]

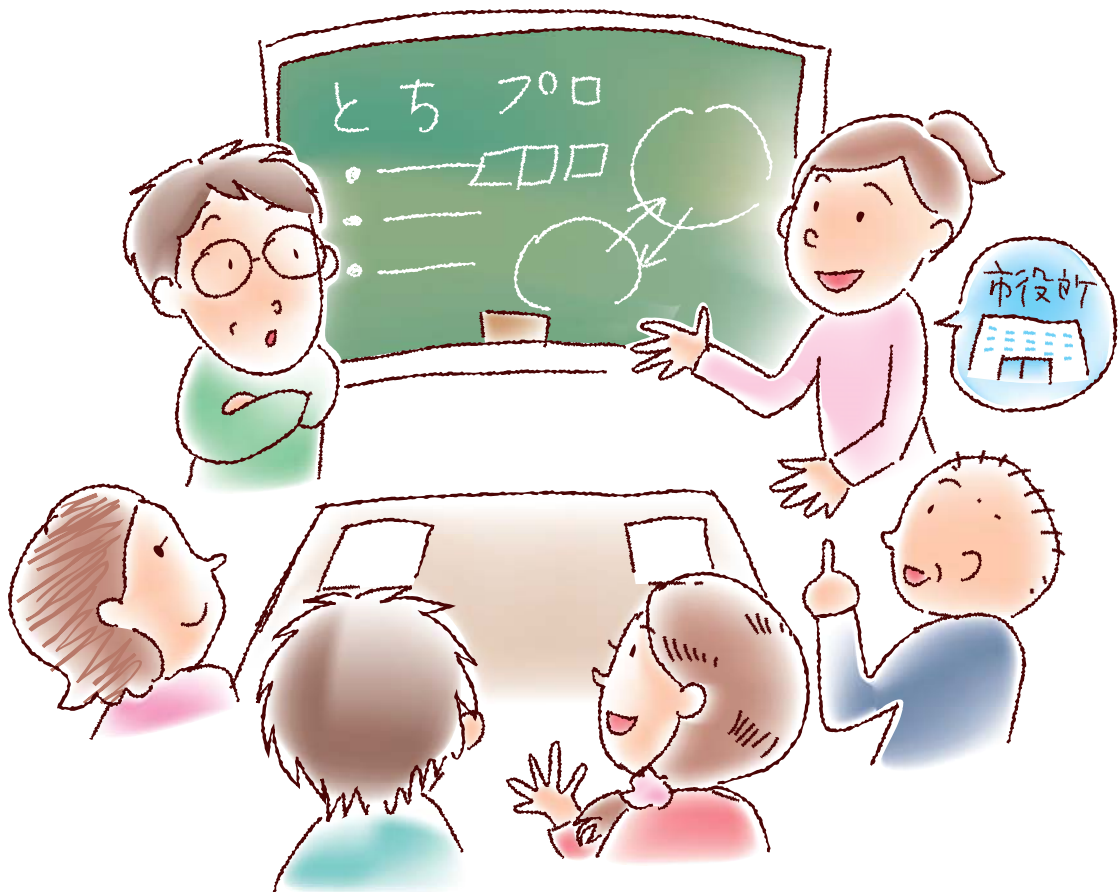
目標	実現方策		
水と緑を活かした学びを通し、自然と親しめる『まち』	No.7	地域の貴重な自然を守る教育を進める	
	数	付箋の記載事項	
	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業と水・植物・生物の関わりを学童と大人が定期的に学ぶ物を作る。</li> <li>・地域の豊かな水と緑を生かした環境保全の教育を強化する。</li> <li>・まちづくり協議会の部会を活用して、省エネ、省資源、エコ活動を小・中学校で特育する。</li> <li>・地域の活動家、経験・知識の豊かな方を任命して守る活動にあたってもらう。</li> <li>・生涯学習センター等にて、自然保護セミナー等を実施する。</li> <li>・父兄が中心になり、自然体験授業を実施する。</li> <li>・小中学校の生徒による自然体験モデルコースを造設する。</li> <li>・小中学校で、学年に応じた自然体験学習のカリキュラムを確立し実施する。</li> <li>・子供会・育成会を活かして、地域ごとの自然体験学習会を導入する。</li> <li>・小中学校での自然体験授業を行う。</li> </ul>	
	実現方策		
	No.8	地域の素晴らしい自然をまちづくりに活かす	
	数	付箋の記載事項	
	18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岡本駅を中心とするサイクリングコースを数コース設定し、レンタル自転車を配置する。</li> <li>・自然環境保全地域を指定して乱開発防止をする。</li> <li>・現有の自然美を有効につないで散策路、遊歩道を整備する。(桜づつみ、九郷半川、谷川 他を)</li> <li>・都市林・里山を学びの場として活用出来るよう整備する。</li> <li>・アドベンチャー施設の拡大。</li> <li>・岡本駅から白沢→鬼怒川パーク迄の散策路を整備する。</li> <li>・鬼怒川堤を自然と親しむ憩いの場として住民で整備する。</li> <li>・林・川・遊歩道の整備を行う活動を展開する。</li> <li>・地域の水と緑を活かして大自然を取り込んだ冒険広場のような一大ゾーンを作る。</li> <li>・自然を取り込んだ遊び体験のイベントを起こし、まちづくりにつなげていく。</li> <li>・都市林・里山の乱開発を制限する。</li> <li>・地域と学校が連携して、ホタルや水生動物・野鳥等の観察会を実施する。</li> <li>・地域に生息するホタル、フクロウ、魚等を活かした川や里山を保全し、まちづくりにつなげれう事業を作る。</li> <li>・河内の自然を判りやすく整理して、河内自然博物館、自然歴史塾を創設する。</li> <li>・河内八景の選定。</li> <li>・自然マップを作成する。</li> <li>・『協働の場』をこれまでより活動を増やす。</li> <li>・様々な環境要素があるなかで地域にあった場を設定する。</li> </ul>	

目標	実現方策		
水と緑を活かした学びを通し、自然と親しめる『まち』	No.9	農業体験や食育を通して自然の大切さを学ぶ	
	数	付箋の記載事項	
	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や地域の連携を保ち食育体験をさせる。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・あそびや体験を通して学びの場をつくる。ニラの花芽摘み。伝統的な料理。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫と調理の一体体験。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元で産する食材を生かした伝統的料理や新たな料理を学び・工夫し、地元の素晴らしさを実感できる活動を展開する。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・農家の協力のもと、生物、農産物の大切さを学び、実践する仕組みを作り活動する。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校生徒に、自然を守る環境保全型農業を体験させる。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「田んぼの学校」推進と普及活動。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・休耕田でのイベント開催。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供達のタテ割のグループ自然体験。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・不耕作地を活用し、学童と住民が一年を通して作物作りに取り組める活動を展開する。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らが育てた農産物を直売することで生産と販売のよこびを学ばせる場を設ける。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・大人と子供と一緒に作物を育てる場と仕組みを作る。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物界の食物連鎖と命の大切さを、農業体験を通して理解させる特育を充実する。</li> </ul>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内の鬼怒川水系を漁業、エコ発電等の水利の活用を策定し事業を展開する。</li> </ul>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・農繁期に農家を応援出来る活動を展開する。</li> </ul>			
ち『地域のみんなが楽しく行事に参加し、交流の盛んな』ま	実現方策		
	No.10	地域みんなが楽しめる交流の場をつくる	
	数	付箋の記載事項	
	14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな催市を企画し、地域全体を盛り上げる。(地域同志で競い合えるもの)</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの施設や現地の中で設定されてた拠点を発展させる。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統的祭りと盆踊りを復活し、地元を元気あるものとする。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の伝統行事を定例化し、盛り上がるように取り組む。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ごとに各団体がいつでも使える設備と駐車場を整備する。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・河内町の時代から行われている交流の場を継承し発展させる。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園でコミュニティカフェを開き、一般の市民との接触を深める。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境教育の充実、普及・原体験・五感・登山などのプログラムの事業。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内の自然公園を交流の場として活用できるように再造営する。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的に高齢者から子供まで、気楽に人が集まれてコミュニケーションが生まれる楽しい場を設ける。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の歴史や伝統を活かして交流の場をつくる。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児と市民の接触の”場”をつくる。</li> </ul>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然を活用出来る施設を作り、家族ぐるみで楽しめる環境を作る。</li> </ul>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域センターに交流室。</li> </ul>			

目標 地域のみんなが楽しく行事に参加し、交流の盛んな『まち』	No.11	地域の各種団体や学校との連携を強化する		
	数	付箋の記載事項		
	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生達の放課後、子供教室を開いている学校があれば、その学校との交流会を実施できる。</li> <li>・学校に自然保護に取り組んでいる人々を呼んで講義をする。</li> <li>・学校、企業の催事を地域広報する。</li> <li>・まちづくり協議会の各部の活動を、特育として小中学校のカリキュラムに導入する。</li> <li>・小中学校の展示場に於いて、地元歴史、文化等の資料を展示。</li> <li>・子供の勤労意欲、就業意識、自立心を高めるための事業を展開する。</li> <li>・公民館活動の中に於いて歴史、文化等のPRを実施する。</li> <li>・生涯学習センターなどでのネイチャクラフト普及・推進。</li> <li>・高齢者福祉運動会(ハートフル)体育祭、高齢者から小児まで参加数を多く。</li> <li>・子供達が地域に貢献できる取り組みを推進する。</li> <li>・スポーツの町河内のスローガンを進めることにより、スポーツの振興が図れる。</li> <li>・地域で活動している文化・体育団体が学童と定期的に交流活動する事を。</li> <li>・小中学校で実践している活動(挨拶運動など)に地域が協調して盛りあげる。(ルール、マナー、挨拶)</li> <li>・声かけ、挨拶、交通安全など、マナー遵守の運動を地域ぐるみで展開する。</li> <li>・防犯、安全パトロールなど、地域に子供達が守られているという認識を高める活動を継続発展させる。</li> </ul>		
		No.12	地域活動の指導者を育成する	
		数	付箋の記載事項	
		15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの人材バンクを把握し、更に地域の活動に生かせるようにする。</li> <li>・地域の中で貢献したい人のリストアップとインストラクター講習会を行い人材確保を図る。</li> <li>・指導者養成は、地元を愛する人を育てる事が根本、テクニックだけではなく、人として大成を肘〇〇学びを中心とする。</li> <li>・様々な学習機会に出席する。資格だけではなく、リスクマネジメントを学ぶ。</li> <li>・様々な資格取得の機会を与える、設定する。</li> <li>・自治会近所の共が〇〇を進める。新たなまちづくり先導を若い人達が主体的に活動できる場とする。(熟年者は指導者)</li> <li>・老ク連(各老人会)が実施する研修会に歴史、文化等についてのPRを行う。</li> <li>・自治会の活動への参加が楽しめるようサポート機能を築き支援者を育成する。</li> <li>・高齢者等の経験と知恵を活用することのできる事業を進める。</li> <li>・俳句バトルでディベート力を養う、課外活動の普及。</li> <li>・「街の先生」の発掘と育成。</li> <li>・各種団体のリーダーの育成教育研修会。</li> <li>・各種ボランティアやPTA、育成会で活躍する人を増やし、各活動が連携して地域を愛する人を支援する。</li> <li>・まちづくり協議会の各部会の活動の中で人材確保を図り、活動の維持発展を図る。</li> <li>・自ら進んで生涯学習や生涯スポーツが展開できる組織づくりと指導者の支援を行う。</li> </ul>	

物語から学ぶ

# 協働のコツ



栃 木 県

# 県民の皆様へ

栃木県では、栃木県重点戦略「新とちぎ元気プラン」(2011～2015)で目指す「新たな時代の公を実現する」ために、NPO・ボランティア団体、企業、地域団体、大学等新たな公の担い手となる多様な主体の協働を推進することとしております。

協働には個々のケースに応じて多種多様な方法や形態があり、また、多様な主体がそれぞれ対等な関係で、お互いの立場や考え方を尊重しながら協働することが重要です。

このような考えから、この冊子は、「協働ルール」としての位置付けを持たせつつ、気軽に物語を読みながら協働のコツをつかみ、それぞれの場合に合わせて活用していただきながら協働を進める上でのルールを感じ取っていただく、という趣旨を込めて「物語から学ぶ“協働のコツ”」とネーミングいたしました。

今後、行政との協働のみならず、民間同士の協働を含め、県政や地域の課題解決に取り組むための入門編として、活用されることを期待しております。

平成24年7月

栃木県県民生活部長 入内澤 滋夫

# 目次

## I はじめに

- 1 本書の目的 ..... 1
- 2 協働の基礎知識
  - (1) 協働とは ..... 1
  - (2) プラットフォームとは ..... 2

## II 物語から学ぶ協働のコツ

- 1 協働のはじまり
  - (1-1) はじまりは一人ひとりの「思い」から ..... 3
  - (1-2) まずは「思い」を声に出してみよう ..... 4
  - (1-3) 仲間を見つけよう ..... 5
- 2 プラットフォームの形成
  - (2-1) 目的と方法を共有しよう ..... 6
  - (2-2) 中心となるメンバーはどんな人? ..... 7
  - 協働のコツ プラス1** コーディネーターとしての役割 ..... 8
- 3 事業を企画する
  - (3-1) 活発な議論こそプラットフォームのおもしろさ ..... 9
  - 協働のコツ プラス1** 「組織」であっても、「個人」のつながり? ..... 10
  - (3-2) 伝えるための資料づくり ..... 11
  - (3-3) 開かれたプラットフォーム ..... 12
- 4 事業を実施する
  - (4-1) それぞれの強みを生かそう ..... 13
  - (4-2) プラットフォームのイメージ ..... 14
  - (4-3) 事業を成功に導くために ..... 16
- 5 事業の振り返りと今後の展開
  - (5-1) 「振り返り」を行い、気づきを共有しよう ..... 17

## III チェックしてみよう「協働のコツ」 ..... 18

## IV ワーキンググループ班員名簿と開催状況 ..... 19



# I はじめに

## 1 本書の目的

少子高齢化による人口減少が進む一方、一人ひとりの意識や価値観は多様化し、地域社会の抱える課題も複雑化しています。このような中、県民、NPO・ボランティア団体、地域団体、企業、大学、行政などの地域を担う多様な人・団体が、それぞれの特性を發揮しながら、協働して課題解決に取り組むことが、暮らしやすく活気のある地域社会をつくっていく上で、大きな力になると期待されています。

本書は、こうした協働に取り組む人たちや、これから協働しようとする人たち全てに向けた、多様な人・団体による協働を円滑に進めるための冊子です。

楽しく読んで理解していただくため、プラットフォームを事例とした物語を題材に、多様な人・団体による協働を成功させるための「コツ」をまとめました。

また、この「コツ」の中には、協働する際のルールが示唆されており、読む人それぞれが感じ取り、お互いに守り、心掛けることによって、協働がより充実したものとなることもねらいとしています。

検討にあたっては、実際に協働している人たちの経験や現状などをできるだけ取り入れて、より現実的に、協働の現場で使えるものとなるよう心がけて作成しました。

本書が、皆さんの協働のさまざまな場面で活用され、実り多い協働が展開されることを願っています。

## 2 協働の基礎知識

### (1) 協働とは

協働とは、県民、NPO・ボランティア団体、地域団体、企業、大学、行政などの地域社会の構成員が、地域の課題を解決するために、対等な立場で、互いの違いを認め補完しあいながら、連携・協力していくことです。

しかし、協働は、あくまでも課題を解決するための方法・手段であり、協働すること自体が目的ではありません。つまり、協働にあたっては、「**なぜ行うのか、どうして行う必要があるのか**」を**考えることが重要であり、解決すべき課題や方法が協働に適しているかを見極めた上で**、互いの主体性や役割を理解し、取り組まなければなりません。

協働の効果	協働のリスク
<ul style="list-style-type: none"><li>◇幅広い人材、多様な考え方が確保でき、単独ではできないことも、それぞれの特性や得意分野を生かし、実現することができる。</li><li>◇新しい情報や手法を得られるとともに、互いに切磋琢磨することによって、レベルアップを図ることができる。</li><li>◇協働の相手方との信頼関係が生まれ、人のつながりが広がり、新たな事業に取り組む際にも協力することができる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>◆複数の人・団体が関与することにより、相互の意思疎通に時間と労力が必要となる。</li><li>◆複数の人・団体が関与することにより、リスクや責任の所在が不明確になるおそれがある。</li><li>◆対等な関係が築けない協働は、依存関係を生み、それぞれの団体の自立性を失わせるおそれがある。</li></ul>

## 「協働に適しているか」検討のポイント

- 目的を共有できるか。
- お互いの特性が生かされ、単独で実施するよりも効果が上がるか。
- 実現の方法を共有できるか。
- 相手と信頼関係を築けるか。
- 社会的立場やお金にかかわらず、対等になれるか。
- 手間をかけても、協働で取り組む意義や効果があるか。

## (2) プラットフォームとは

プラットフォームとは、NPO・ボランティア団体、地域団体、企業、大学、行政などの多様な人・団体が、共通する課題に応じて集まり、それぞれが得意とする知識・技術や人のつながりを活かし、課題解決や新しい目的の実現に向けて企画を作り、協働事業として実行に移していく場のことをいいます。

様々な人がいろいろな方面から集まり、同じ方向(目的)を目指す様が、同じ電車に乗って目的地を目指す駅のプラットフォームに似ていることや、協働する上での基盤となる協議・検討を行う場であることから、構造全体における底部・基礎部分を意味するプラットフォームが語源ともいわれています。

協働は課題を解決するための方法・手段ですが、プラットフォームは、様々な協働の形態の中の一つです。

## 「協働」に関する県の施策の移り変わり

栃木県では、NPO等と行政との協働を推進するため、平成19年度からNPO等から行政への企画提案による協働事業に取り組んできました。

さらに、平成23年度からは、NPO等や行政だけではなく、企業や地域団体など、多様な人・団体が参加したプラットフォームによる協働事業も実施しています。

本書で扱うプラットフォーム型の協働事業は、課題や目的の共有から、企画の作成、事業の実施までのプロセスを協働で行うという特徴があります。早い段階から検討を重ね、合意形成を図った上で事業を実施するため、多様な主体の意見が集約された、より多角的な事業展開が期待できます。

平成15年4月 「栃木県社会貢献活動の促進に関する条例」の施行

18年度～ 「行政とNPO等との意見交換会」を開始

19年度～ 「NPO等からの提案協働事業」を開始

23年5月 「栃木県社会貢献活動の促進に関する施策の基本方針」の策定

23年度～ 「とちぎ地域力創造プラットフォーム」を開始

## II 物語から学ぶ協働のコツ

### 1 協働のはじまり

#### (1-1) はじまりは一人ひとりの「思い」から



日頃から環境保護について考えている青木さんは、市が主催した5回シリーズの「とちぎ山の自然を学ぶ」講座に参加し、「こんなにとちぎ山のことを学んだのだから、実際に登山に行きたいなあ。山のゴミも収集して、きれいにできたらいいな。」という思いを持ちました。

以前から、登山ブームの影で自然環境が汚されつつある現状を見聞きして、自分でも何かしたいと思っていたのです。

協働は、同じ目的を持った人たちが集まって、語り合うことから始まります。

講座に参加した青木さんのように、**☆新しい知識を得るなど学習に意欲的で、社会や地域の課題に関心を持ち、何とかしたいという思いを持つ人**が増えれば、いろいろなところで協働が生まれてくることでしょう。

協働やプラットフォームに興味を持って、本書を読んでいるあなたも、新たな一步を踏み出しているのではないのでしょうか。

さあ一緒に、物語から、協働の上手な進め方のコツをつかんでいきましょう。

#### 協働のコツ

- ☆ 講座やセミナーに参加して意欲的に新しい知識や情報を得よう。
- ☆ 社会や地域の課題に関心を持ち、何とかしたいという思いを生かそう。

### 物語の主な登場人物

青木あおきさん



環境保護に取り組むNPO法人に入っている。このプロジェクトの発案者。勉強熱心。

石川いしかわさん



登山のサークルに入っている。登山経験も豊富な山のプロ。面倒見がいい。

上野のぶのさん



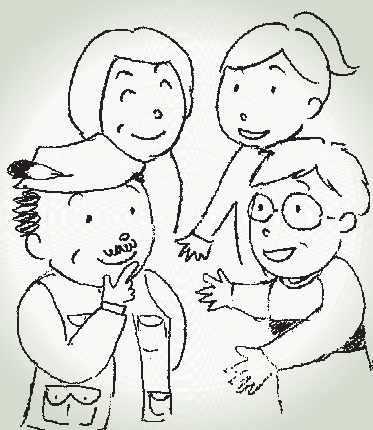
地元の自治会で役員をしている。パソコンが得意。ヨガ教室に通い健康づくりに気をつけている。

遠藤えんとうさん



市役所の職員。「とちぎ山の自然を学ぶ」講座の担当者。好奇心が旺盛。お酒が好き。

## (1-2) まずは「思い」を声に出してみよう



講座の最終日、青木さんは「何かしたい」ということについて、仲の良い石川さんに思い切って相談してみました。石川さんは、登山のサークルにも入っている山のプロです。

そこに、2人の話を聞いていた上野さんと遠藤さんが「いいですねえ、私たちも仲間に入れてくれませんか。」と申し出てきました。

そこで、講座終了後、4人は食事をしながら青木さんの提案についてゆっくり話すことにしました。

☆**思いを同じくする人たちが会えるのは、講座やセミナー、公民館やカフェなど、人が集まる「場所」でのおしゃべりがきっかけとなることが多いので、何かをはじめたいとき、仲間を見つけたいときは、そういった「場所」に顔を出すのもいいでしょう。**

また、せっかく人の集まる「場所」に出かけても、「思い」を心にしまっていては、誰にも伝わらず、何も始まりません。☆**まずは自分の「思い」を受け止めてくれそうな人に声をかけてみましょう。**個人の「思い」が他の人にも伝わり、共感の輪が生まれたとき、「思い」が実現に向けて動きはじめます。

### 協働のコツ

- ☆ **人が集まる「場所」(講座・セミナー、公民館、カフェなどの交流の場)からつながりが生まれる。積極的に出かけてみよう。**
- ☆ **自分から声をかける。まずは4人くらいからはじめてみよう。**
- ☆ **協働は「人と人のつながり」からはじまる。日頃から人との付き合いを大切にしよう。**

## 物語の主な登場人物

大塚(おおつか)さん



地元企業のとちまる食品のCSR\*(5ページ参照)推進室に勤務している。何事にも熱く取り組む好青年。

加藤(かとう)さん



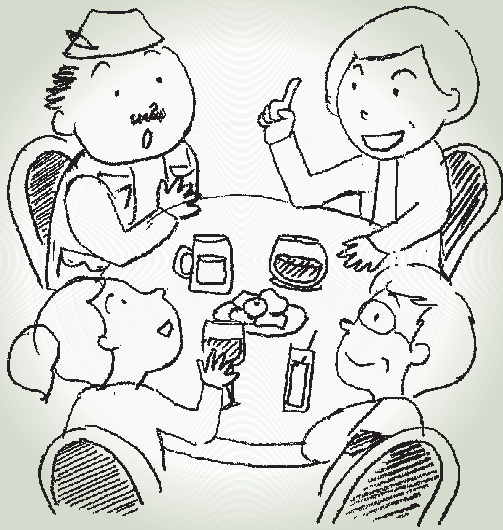
地元の商店会の役員をしている。韓流ドラマにはまっていて、ハングル語を勉強中。

菊地(きくち)さん



市民活動支援センターの職員。大学時代は山岳部に所属。地元のおいしいものに詳しい。

### (1-3) 仲間を見つけよう



食事が進み、青木さんの提案で話が盛り上がりました。

遠藤さん:「せっかくだから、講座の他の修了者にも声をかけてみましょうか。」

石川さん:「そうだね、興味のありそうな人に声をかけてみようか。」

青木さん:「言葉よりも実践している人や何か得意なことを持っている人がいいかな。」

上野さん:「□先ばかりの人はちょっとねえ。」

青木さん:「会社のCSR※担当で清掃活動をしている大塚さんにも声をかけてみよう。」などの声が上がりました。

「思い」を実現するためのプラットフォームづくりがはじまったようです。プラットフォームづくりの過程で、仲間を見つけることが最も重要でかつ難しいところではないでしょうか。メンバー次第でプラットフォームの可能性も大きく広がります。

実際に、プラットフォームに参加し、事業を成功させている人たちには、☆人の意見を最後まで聴き、どうしたらその意見を生かせるか前向きに考えることや、みんなで活動することを楽しむこと、人任せにせず自ら進んで行動することなどが共通しているようです。

さまざまな考え方の人たちが集まるプラットフォームでは、お互いの特性を尊重しながら、自由に発言できる雰囲気づくりが大切です。それぞれの立場や考え方、得意分野などの違いをうまく生かし、力を出し合うことが事業の成功につながります。

#### 協働のコツ

- ☆ 人の意見を最後まで聴き、受け入れ、どうすればできるのかを考えてみよう。
- ☆ みんなで活動することの楽しさや、自分が汗を流すことの心地よさを実感しよう。

※ CSR・・・企業の社会的責任(Corporate Social Responsibility)の略。

法令を遵守するだけでなく、人権に配慮した適正な雇用・労働条件、消費者への適切な対応、環境問題への配慮など、企業が地域における市民としての自覚を持って果たすべき責任のこと。CSR活動の一環として、社会貢献活動に取り組む企業も多い。

## 2 プラットフォームの形成

### (2-1) 目的と方法を共有しよう



4人がそれぞれ信頼できる人たちに声をかけると、年齢や職業の異なる10人が第1回目の会合に集まってきました。

まず、発案者の青木さんが、趣旨説明をして、課題や目的、「思い」を伝え、石川さんが清掃登山によって実現していくという方法について提案しました。

また、みんなに、とちぎ山のゴミ問題に関する新聞記事を回覧し、質問や意見などを出してもらいました。すると、「とち

ぎ山も昔はきれいだったのになあ。この間行ったときは汚くてがっかりしたな。」とか、「以前、違う山で清掃登山に参加したことがあったけど、地元の人にも喜んでもらえてうれしかったよ。」といった意見が出されました。

みんなの考えを十分に聴いたので、会議終了時には、全員が同じイメージを抱き、思いを共有することができました。

そして、「とちぎ山清掃登山プロジェクト」と名付け、具体的な企画作成に取り組んでいくこととなりました。

仲間が集まり、いよいよプラットフォームが形づくられてきました。さまざまな人たちが参加するプラットフォームであっても、その目的は一つです。メンバー同士で**☆目的を共有することで、事業の方向性が明確になります。**

また、目的だけではなく、その**☆実現方法についても話し合い、共有しておく必要があるでしょう。**目的は同じであっても、その実現方法で意見が分かれ、事業が途中で行き詰まってしまったり、プラットフォームが空中分解してしまうこともあるようです。

多くの人の理解を得て、意見を一つにまとめることは簡単ではありません。しかし、**☆自分の考えや意見をきちんと説明するとともに、他の人の意見もよく聴くこと**で、お互いが理解でき、同じ「思い」を持つ仲間となって事業を進めることができます。

#### 協働のコツ

☆ じっくりと話し合い、目的と方法、そして思いを共有しよう。

☆ 自分の意見をきちんと主張し、相手の意見もよく聴き、お互いを理解しよう。

## (2-2) 中心となるメンバーはどんな人？



第1回目の会合に集まった10人のうち、大塚さんと加藤さんの2人が事務局を申し出てくれたので、発起人の4人を含めた6人が事務局となり、プロジェクトを運営していくこととなりました。

6人は、それぞれ活動の幅も広く、自分の所属する団体の情報や誰が何に詳しいのかをよく知っていて、困ったときには誰に相談すればいいのか、誰に協力してもらおうといいのかという人脈も備えていました。

6人は、携帯電話の番号や、メールアドレスなどの連絡先を交換し、いつでも情報交換ができるようにしました。

また、メンバー間でプロジェクトに関する考えを統一しておくために、何か気になることがあったらすぐに連絡を取り合い、必要なときは会って相談できるようにしました。

プラットフォームを運営していくには、まとめ役ともいえるべき中心的な役割を担う人たちが必要です。中心メンバーは、会議の開催などの実務だけではなく、意見をまとめたり、人と人をつないだりといった調整も行うため、**★いくつかの団体に所属していたり、友人や知人がたくさんいるなど、活動的で豊かな人脈を持っている人が適任**のようです。

また、中心となるメンバー同士では、とりわけ、情報共有が重要です。同じ思いを持つことで、意思決定を迅速に行うことができます。**★こまめに連絡を取り合い、必要があれば会うこともできる環境を整えましょう。**

### 協働のコツ

- ★ 中心メンバーは、人と人をつなぐコーディネーターの役割を担おう。
- ★ すぐに連絡が取れ、必要があれば会うことができる関係をつくろう。

## コーディネーターとしての役割

「中心メンバーは、人と人をつなぐコーディネーターの役割を担おう。」を協働のコツにあげましたが、具体的に、コーディネーターの役割とはどのようなものでしょうか。

### ① 人と人をつなげる役割

目的を実現するための協力者を見つけたり、同じ目的や考えを持っている人や、手を組むと大きな成果を生む人たちをつなげるとともに、対立する人の仲立ちなどを行います。このため、**バランス感覚に優れ、広い視野、寛容さ、豊かな人脈を持ち、それぞれの特性を把握していることが必要**です。

### ② 円滑な議論を促進する役割

会議やミーティングなどにおいて、メンバーが対等な立場で活発に発言できるような雰囲気をつくりだすとともに、話の流れを整理したり、認識の一致を確認したりして、円滑で実り多い会議となるよう、ファシリテーター（進行役）を務めます。

### ③ プロジェクトを統括する役割

企画立案、人材・物資・資金などの調達、事業の進行管理など、プロジェクトが成功するよう全体を統括します。

プラットフォームの中心メンバーに求められるのは、カリスマ的にメンバーを引っ張っていくリーダーではなく、**メンバーの声をよく聴き、いろいろな意見を柔軟に一つにまとめ、実現に導く、コーディネーター**なのです。



## 3 事業を企画する

### (3-1) 活発な議論こそプラットフォームのおもしろさ



今回のプロジェクトで、具体的にどのような事業を行うのか、企画を練るため、2回目の会合が開かれました。

事務局の6人から事業の規模や日程、環境保護の普及啓発につなげるための事業内容やできる限り環境に負担をかけない実施方法など、おおまかな事業の案がメンバーに説明されました。

そして質疑や意見交換がはじまると、これはもう大変でした。

「市に相談したら支援や協力が得られるかもしれない。」という意見が出ると、「これは自分たちで自主的にやることだから行政とは無関係に自由にやりたい。」という意見も出て、それぞれに賛成、反対する意見もあり、なかなか結論が出ませんでした。

しかし、市役所職員の遠藤さんが、担当課との仲介役を買って出てくれたため、市役所に協力してもらえないか相談してみようという結論になりました。

また、大塚さんからは、「うちの会社の清掃活動キャンペーンの一環とすれば、ゴミ袋や道具を提供できるかもしれない。会社に提案してみるよ。」と発言がありました。

さらに、以前イベントを開催した経験があるメンバーから、「いざという時のために、参加者には保険に加入してもらい、連絡先の一覧表を作成したほうがいいよ。保険は以前に利用したことがあるから、私が手配するよ。」という提案もありました。

このように自分の得意なことを生かした提案が続き、事業計画がつくられていきました。

さまざまな考えの人たちが参加するプラットフォームでは、その多様性ゆえに全員の意見がなかなか一致しないことがあります。しかし、**☆多様性こそがプラットフォームの財産**なのです。**☆多様な視点での検討は、多くの人に満足される事業を生み出すことはもとより、少数派の意見や危機対応の点にも配慮されたきめ細かな事業運営につながります。**

では、多様性を生かしながら活発に議論し、それらの意見をまとめるためにはどのような工夫が必要でしょうか？

物語では、それぞれのメンバーが、**☆経験や得意分野を生かし、自ら行動することを提案**していますね。

また、**☆言いたいことを言える、議論しやすい雰囲気づくり**も大切です。みんなが安心して発言できるよう、話の中で出た秘密を守るとともに、公平な立場で、多くの人から意見を引き出すファシリテーター（会議の進行役。コーディネーターが兼ねることもあります。）がいると効果的です。

時には意見が対立し、議論が停滞してしまうかもしれません。そんなときは、まずは☆**原点に立ち戻り、当初の目的を確認**しましょう。各自の目的に対するイメージや思いの違いが、対立の原因であったりするものです。だからといって、☆**原案にこだわりすぎず、それぞれの意見を受け入れ、変えていく柔軟な姿勢**も大切です。

それでも、実際には、容易に合意できないこともあるでしょう。そんなとき、結論を急いで強引に議論を進めるのは危険です。☆**見方や言葉を変えて考えたり、時間をおいたりして、気分を新たにす**る工夫が必要です。また、お互いの意見を譲り合い、合意できる着地点を見いだすことも大切です。

### 協働のコツ

- ☆ 意見やこだわりの違いは、プラットフォームの財産。違いを楽しみ、生かすゆとりを持とう。
- ☆ 自分から行動し、主体的な提案をしよう。
- ☆ みんなが言いたいことを言える対等な関係で議論しよう。
- ☆ 意見が対立したときや行き詰まったときは、「目的」に立ち戻って考えよう。
- ☆ 原案にこだわらず、柔軟な考えを持とう。
- ☆ それでもダメなら、敢えて先送りして、新たな気持ちで考えてみよう。

### 協働のコツ プラス1

#### 「組織」であっても、「個人」のつながり？

現在、多くの企業や行政においては、人員削減が進められ、社員（職員）一人ひとりの能力を最大に生かして効果的に仕事を進めることが求められています。この場合の能力とは、仕事で培ったものだけでなく、ふだんの生活や趣味などから得た経験や知識、特技、人脈など、その人の潜在的な能力も含む個人の総合的な能力を指しています。

実際の協働の現場では、組織同士の協働であっても、こうした個人の能力をきっかけとして、プロジェクトがはじまることが多々あります。「仕事だから」、「担当者だから」という姿勢ではなく、**自分の能力を発揮し、主体的に関わっていくことが重要**です。

プラットフォームでの検討を円滑に進めるためには、**日頃から組織の情報を多く得るよう**に努め、その上で、**しっかりと自分の考えを持つこと**を心がけましょう。

## (3-2) 伝えるための資料づくり



さて、市役所に相談に行くにあたり、仲介役となってくれた遠藤さんが、「こちらのやりたいことがきちんと伝わるよう企画書を作成して持って行こう。」と提案しました。大塚さんも、「企画書があれば、会社にも説明しやすいからいいね。」と遠藤さんの意見に賛成しました。

そこで、事業計画の資料をもとに、自分たちができること、したいこと、市役所や企業に依頼したいことなどを明確にした企画書を作成することにしました。

青木さんと石川さんができあがった企画書を持って市役所に行き、自分たちの考えを説明すると、プロジェクトの趣旨を理解してもらえたためか、山で拾ってきたゴミの処理を市役所が引き受けてくれることとなりました。また、大塚さんも上司の了解を得ることができ、会社からゴミ袋や道具を提供してもらえることとなりました。

こうした協力を得るにあたり、事業の目的や責任の所在を明確にするためにも組織をつくらうということになり、規約などを整えて「とちぎ山清掃登山プロジェクト実行委員会」として活動していくことにしました。

事業を進める時は、**☆どのような事業を実施するかを明らかにし、メンバー間で共有するためにも、事業企画をまとめたものをつくりましょう。**必要に応じて、チラシやメモなど簡易なものでもよいようです。

また、事業によっては、他の団体や企業、行政などと協力・協働したほうが効果的な場合があります。その場合には、目的や事業内容、経費、役割分担などを示した**☆企画書を作成し、説明することで、趣旨を正確に伝える**ことができ、相手からの信頼も得やすくなります。

市民主体でつくられたプラットフォームにおいても、企業や行政などから補助金等の支援を受けるなど、協働して事業を進める場合には、申請や契約などの手続が必要になります。その場合には、企画書のほかにも、**☆規約や役員を決めるなど、責任の所在を明確にすることが必要**となります。それにより、**☆団体の透明性が高まり、社会から信頼される**ことにもつながります。

### 協働のコツ

☆ 事業内容を明らかにし、協力者を得るためにも、企画書をつくろう。

☆ 多くの人々に理解してもらうために、団体の規約などを整えておこう。

### (3-3) 開かれたプラットフォーム



実行委員会の会合は、月2回、市民活動支援センター※で行っていたので、メンバーは、センターの職員の菊地さんと次第に親しくなり、声を掛け合うようになりました。

そしてよく話を聴いてみると、菊地さんは大学時代に山岳部にいたので、このプロジェクトに関心があり、自分も実行委員会に参加したいということです。

では、一緒にやろうということになり、仕事の空き時間には会合に参加してくれたり、相談に乗ってくれたりするようになりました。

菊地さんは若く、斬新なアイデアの持ち主で、市民活動の情報にも詳しいので、次第にみんなから頼りにされるようになりました。また、菊地さんのアイデアに触発され、会合もさらに活発な雰囲気になりました。

一方で、実行委員会から抜けていくメンバーもいました。企画を詰めていくうちに、このプロジェクトとは別に、子どもたちを対象とした環境保護事業をやってみたくなったということです。環境保護という目的は一緒でも、実現する方法が異なれば一緒にやることは難しくなります。

今まで一緒にやってきたメンバーが抜けることには寂しさもありましたが、やりたいことに向かって歩き出した彼女を応援する気持ちで送り出しました。

菊地さんがメンバーとなったことで、プラットフォームの雰囲気も変わったようですね。☆**新しいメンバーが加わることで刺激が生まれ、プラットフォームが活性化**したようです。

また、プラットフォームはプロジェクトを実行する場である一方、別の新しいアイデアが生まれ、実現に向けて動き出す場でもあります。物語でも、メンバーの一人が新たな目標を見つけて、プラットフォームから巣立っています。

プラットフォームでの出会いから、新たにいくつものプロジェクトが立ち上がり、一人の人が複数のプロジェクトに関わっていくこともあります。

このように、☆**メンバーが自由に出入りすることで、変化が生まれ、プラットフォームが成長し、可能性が広がっていきます。**

#### 協働のコツ

☆ **メンバーが自由に出入りできるようにし、新しいアイデアでプラットフォームの可能性を広げよう。**

※市民活動支援センター…NPO・ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちや、これから活動しようと考えている人たちの支援を行っている施設。活動に関する相談や情報発信、会議室の貸出しなどを行っている。

## 4 事業を実施する

### (4-1) それぞれの強みを生かそう



事業計画も細かいところまで固まってきたので、実施のための準備を行うことにしました。

集合場所やとちぎ山の下見に行ったり、道具をそろえたり、役割分担をしながらも、互いの進み具合について連絡を取り合いながら準備を進めました。

また、パソコンの得意な上野さんが中心となって参加者募集のチラシを作り、メンバーそれぞれが人脈を生かしていろいろなところで配布しました。

青木さんは環境保護のイベント会場で、上野さんは自治会に呼びかけて、遠藤さんは講座参加者に配って、菊地さんはセンターの掲示板に貼った

り、ホームページに掲載して…というような具合です。

また、加藤さんの知り合いの地元紙記者にも企画を説明し、取材してもらえることとなりました。

みんなで努力した結果、参加申込者は定員の20名になりました。

事業を実施するときにも、プラットフォームの機動力や多様性が生かされていますね。一人ではできないことも、それぞれの☆**経験や特性、技術・知識を持ち寄り、お互いに助け合うことで、それぞれの能力が引き出され、効果的に事業を進めることができるようです。**

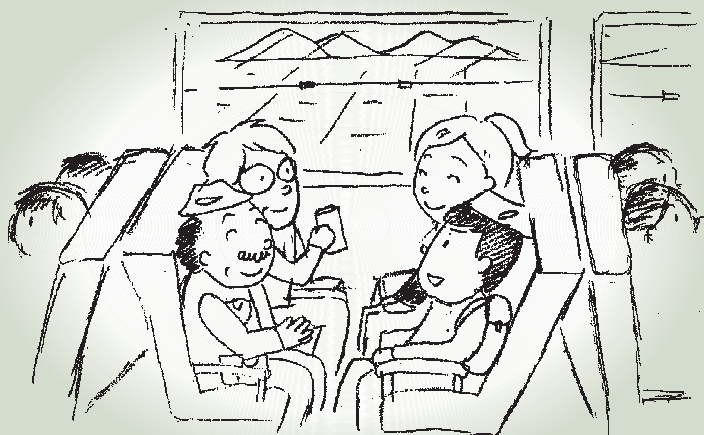
物語では、メンバーそれぞれの人脈を生かして、いろいろな場所で広報活動を行っています。それぞれの☆**得意分野に応じた役割分担をすることで、円滑に事業を進めることができます。お互いの進み具合を報告し合い、連携したり、一緒に現場に出ることで、メンバー同士の絆が深まり、信頼が生まれます。**

このように☆**一緒に事業を行うことで、お互いの知識や経験から学び合うことができ、個人の能力もさらに高まることとなります。**

#### 協働のコツ

- ☆ それぞれの得意分野を生かして助け合っていこう。
- ☆ 進み具合の確認をしたり、一緒に現場に出て、メンバーの絆を深めよう。
- ☆ プラットフォームの強みを生かし、お互いの知識や経験から学び合おう。

## (4-2) プラットフォームのイメージ



清掃登山の当日、実行委員会メンバーと参加者は出発駅のプラットフォームに集まりました。

いろいろなところから、それぞれの特徴を持ち合わせた参加者が、とちぎ山という目的地に向かう電車に乗るために、初めて一つの場所に集まりました。

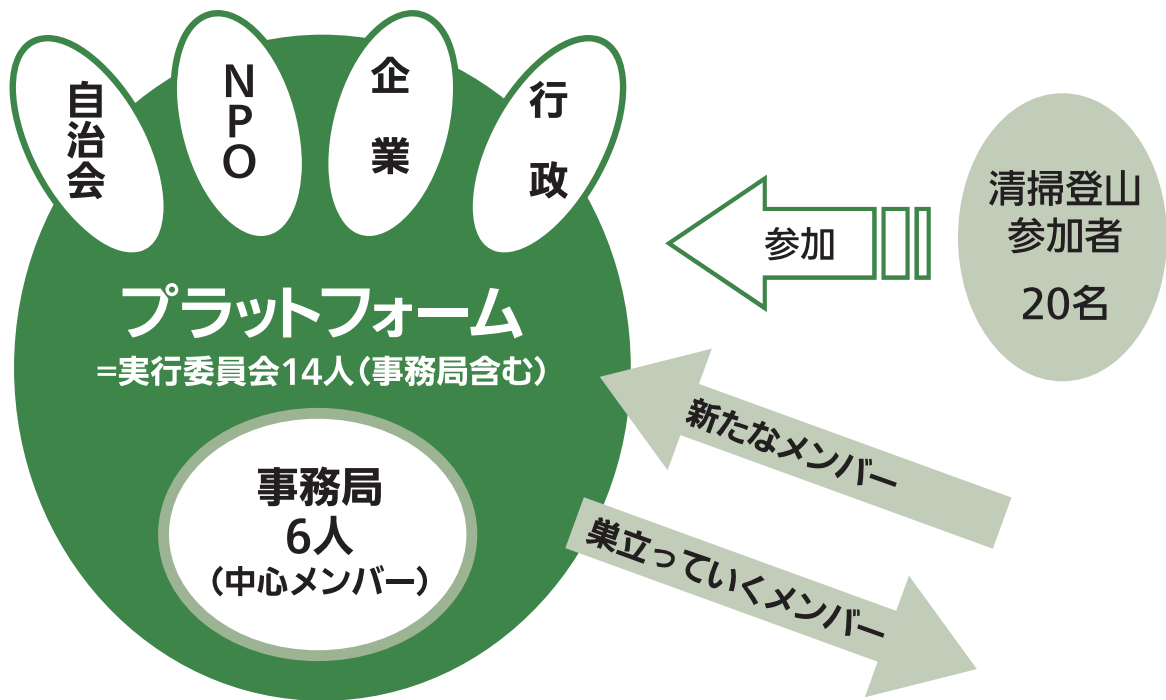
年齢も職業も様々でしたが、登山と環境保護という目的に向かって集合し、同じ電車に乗りました。

はじめて出会った人々ですが、事務局が配った黄色いリボンが目印となって、一つの仲間のように、「こんにちは。よろしくお願いします。」というお互いがあいさつを交わす、明るい声があちこちから聞こえてきました。

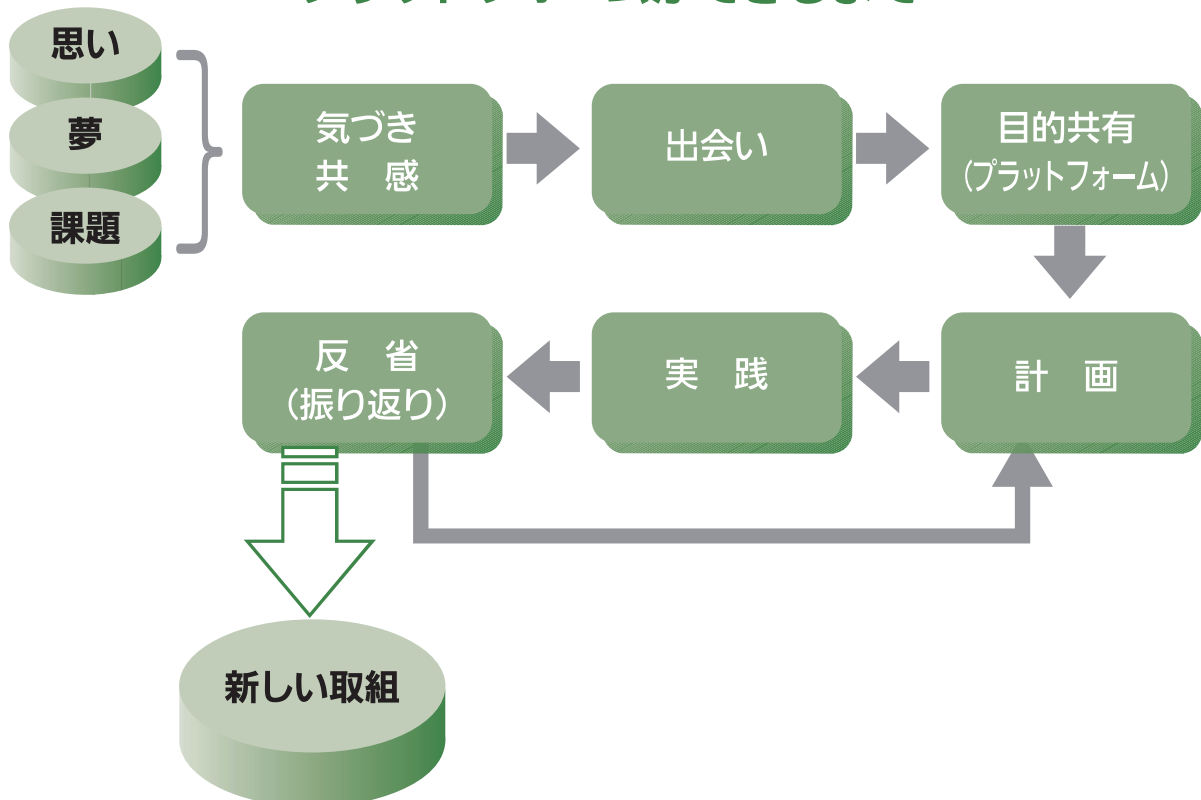


プラットフォーム

## 「とちぎ山清掃登山プロジェクト」におけるプラットフォームの形



## プラットフォームができるまで



### (4-3) 事業を成功に導くために



当日は絶好の登山日和でした。登山経験の豊富な石川さんを先頭に、とちぎ山特有の植物や生態系について説明を受けたり、景色を楽しんだりしながら、ゴミ拾いをして、頂上を目指しました。

頂上に着いた頃には、みんなすっかり仲良くなり、一緒にお弁当を食べたり、集合写真を撮ったりと、楽しい時間を過ごしました。

ところが、いよいよ下山、ゴミも順調に集まりもう少しで終了、というとき、参加者の一人がつまずいてねんざしてしまったのです。

みんなが心配する中、青木さんが参加者の中に看護師さんがいたことを思い出しました。あらかじめ用意しておいた薬や包帯で看護師さんに応急手当をしてもらって、全員下山することができました。怪我をしてしまった参加者には、事前に入っていた保険について再度説明し、病院で治療を受ける際の手続についても説明しました。

こうしたアクシデントもありましたが、とちぎ山を後にするときには、みんなきれいになった山を見返しながら、心地よい疲労感と達成感に包まれていました。

そして、駅からまた電車に乗り、朝、集合したプラットフォームに戻りました。来るときは一人ひとりだったのに、みんなで連れ立って帰る姿が印象的でした。

ここでも、メンバーそれぞれの強みが活かされています。

石川さんは登山経験や山の自然に関する知識を生かして事業を盛り上げていますし、怪我人が出てしまっても、参加者に看護師さんがいたので、手当てをもらうことができました。

また、以前の企画会議での提案どおり保険に加入していたおかげで、治療費の不安も解消されました。**☆それぞれの得意分野が、事業の充実やリスク回避に活かされていますね。**

このように、プラットフォームが機能すれば、事業が円滑に進み、目的の達成に近づくことができます。

#### 協働のコツ

☆それぞれの得意分野を生かして、事業の充実を図ったり危機管理に努めよう。



## 5 事業の振り返りと今後の展開

### (5-1) 「振り返り」を行い、気づきを共有しよう



帰り道、メンバーと参加者有志は清掃登山の反省会をするために、駅近くの居酒屋に立ち寄りしました。

飲みながら反省会をして忘れるといけないので、センター職員の菊地さんが仕切り役となって、「良かったこと・成果」と「悪かったこと・反省点」、「次にしたいこと」について、各自が思い出しながら付箋に書き、似た項目ごとに分類して模造紙に貼っていました。

すると、それぞれがなんとなく感じていた「成果」や「反省点」が整理されました。

そして、次回に向けて実行すべきことが具体的に浮かび上がりました。まとめた意見をもとに、報告書を作成することにしました。

とちぎ山を少しでもきれいにできたという充実感、同じ汗をかいた仲間との絆、そんな喜びの中で、最も盛り上がったのは「このメンバーで他にも何か新しいことに挑戦してみよう!」ということでした。

「実は、わたし、こんなことしてみたいんですが・・・。」  
おっと、また新しい協働が生まれそうな予感がします。

事業が終わった後、☆**振り返りを行うことで、事業の成果や反省点が明らかになり、次へのアイデアが生まれてきます。**次の事業をより充実したものにするためにも、また、自らの学びのためにも振り返りを行い、みんなで共有しましょう。さらには、☆**結果を報告書などにまとめることで、次への意欲もわきます。**

振り返り・評価は、プラットフォームを円滑に進める上で大切です。成果と反省から新しい課題が見つかり、また一緒に何かをしたくなるという思わぬ副産物も生まれる可能性を持っています。

プロジェクトには、終わりがありますが、そこで培った人のつながりには終わりはありません。新しい協働をするときにも生きてきます。この事業をきっかけに、新たなプロジェクトに向かって巣立っていく人がいることは、プラットフォームによる協働の大きな成果といえるでしょう。

#### 協働のコツ

- ☆ 振り返りを行い、成果や反省点を明らかにし、次に生かそう。
- ☆ 結果を報告書などにまとめてみよう。

### Ⅲ チェックしてみよう「協働のコツ」

物語から発見した「協働のコツ」を、もう一度振り返ってみましょう。  
あなたが実際に協働に取り組む時にも、是非役立ててください。

協 働 の コ ツ		チェック
1	社会や地域の課題に関心を持ち、何とかしたいという思いを生かそう。	
2	自分から声をかける。まずは4人くらいからはじめてみよう。	
3	協働は「人と人のつながり」からはじまる。日頃から人との付き合いを大切にしよう。	
4	人の意見を最後まで聴き、受け入れ、どうすればできるのかを考えてみよう。	
5	じっくりと話し合い、目的と方法、そして思いを共有しよう。	
6	自分の意見をきちんと主張し、相手の意見もよく聴き、お互いを理解しよう。	
7	すぐに連絡が取れ、必要があれば会うことができる関係をつくろう。	
8	意見やこだわりの違いは、プラットフォームの財産。違いを楽しみ、生かすゆとりを持とう。	
9	自分から行動し、主体的な提案をしよう。	
10	みんなが言いたいことを言える対等な関係で議論しよう。	
11	事業内容を明らかにし、協力者を得るためにも、企画書をつくろう。	
12	メンバーが自由に入出りできるようにし、新しいアイデアでプラットフォームの可能性を広げよう。	
13	それぞれの得意分野を生かして助け合っていこう。	
14	進み具合の確認をしたり、一緒に現場に出て、メンバーの絆を深めよう。	
15	プラットフォームの強みを生かし、お互いの知識や経験から学び合おう。	
16	振り返りを行い、成果や反省点を明らかにし、次に生かそう。	

## Ⅳ ワーキンググループ班員名簿と開催状況

本書の作成にあたっては、実際に協働に取り組んでいる方々によるワーキンググループを設置し、栃木県社会貢献活動促進懇談会の御意見を聴きながら検討を重ねました。

### 1 ワーキンググループ班員名簿

(敬称略 50音順、平成24年3月31日現在)

No.	氏名	現職等
1	安藤 正知	NPO法人宇都宮まちづくり市民工房理事
2	薄羽 豊典	NPO法人ましこイーまちネット理事長
3	鈴木 廣志	野木町立南赤塚小学校教頭、NPO法人ハイジ理事
4	廣瀬 隆人 (班長)	宇都宮大学教授、とちぎ市民協働研究会代表
5	堀江 則行	トヨタウッドユーホーム株式会社 経営企画部企画広報グループ長兼同部秘書課長
6	谷田 克彦	栃木県県民生活部県民文化課主任(那珂川町)

### 2 開催状況

#### (1) ワーキンググループ

平成23年5月13日、6月10日、7月8日、8月26日、9月9日、10月14日、11月25日、12月9日、平成24年1月13日、3月9日(全10回)

#### (2) 栃木県社会貢献活動促進懇談会

平成23年11月15日、平成24年2月16日

とちぎの協働ルール  
物語から学ぶ協働のコツ

---

発行年月日 平成24年7月  
発行 栃木県県民生活部県民文化課  
〒320-8501  
宇都宮市塙田1丁目1番20号  
TEL 028-623-3422  
FAX 028-623-2121  
メール [kyodo@tochigi.lg.jp](mailto:kyodo@tochigi.lg.jp)

がんばろう日本!  
元氣をとちぎから。



この印刷物は古紙配合率70%の再生紙と環境にやさしい大豆インクを使用しています。